

## 市史講座第 11 回ミニレポート

2月8日(土)第11回の講座が開かれました。

第1部：「古代出雲の交通」(講師:松江市文化財保護審議会委員 勝部昭 先生)



勝部先生は、まず、古代の交通制度(駅馬・伝馬制など)を概観され、つづいて、『出雲国風土記』などの文献史料や発掘調査の成果などから、古代出雲国内の交通路の状況を説明されました。

そのなかで、『播磨国風土記』や『出雲国計会帳』の記述から、出雲国から京への道として、山陰道だけではなく、中国山地を越えて山陽道に出て京に向かうルートも考えられていることを紹介されました。また、陸上交通だけでなく、『出雲国計会帳』の記述から、大宰府と越前国を結ぶ海上交通路があり、出雲国の港津を経由する海路があったこともお話しされました。

第2部：「松江城下『おぼえ日記』にみる町人の『家』と男・女・子ども」(講師:文岡山大学大学院客員研究員 沢山美果子 先生)

沢山先生はまず冒頭で、昔話で語られる「桃太郎」などの絵画資料を揚げ、江戸時代の男女の性と役割、出産に男性が関わっていた事などに触れられました。そのうえで松江市に残る「大保恵(おぼえ)日記」(松江の商家である新屋(あたらしや)手代太助の日記で、松江市指定文化財)の中での男女について、特に出産・子供に対する考え方、一般の女性と遊女について、その特徴を話して頂きました。

「大保恵日記」を書いた太助は、妻の出産だけでなく、主人の家の出産についても詳細に記しており、自分の家のみならず本家の存続を重んじていた事がわかります。また、和多見の遊女と太助を含む男性達との関わりも記されており、遊女が様々な地域から買われてやってきた事、若くして亡くなったり逃亡する遊女もいた事から、過酷な環境であった事を話されました。

このような人々の観念や日常生活が史料として残る事は少なく、「大保恵日記」は市民の皆さんに是非読んでもらいたい史料、と締めくくられました。

